



して同町内の中野地区復興産業拠点に新工場を建設。避難指示の一部解除が予定される同町で、インフラ整備に欠かせない道路舗装材の製造を開始することによって、地域産業の復興をけん引する。双葉中央アスコンは、新規

双葉中央アスコン操業開始

双葉中央アスコン
林道路
大双葉

復興のけん引期待

双葉住コン・大林道路JVは、福島県双葉町の「双葉中央アスコン」の操業を開始した。写真。東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に伴い休止状態となった双葉住コンのアスファルト合材工場再建を目指し、大林道路と連携

する。双葉中央アスコンは、新規合材で1時間当たり60ト、再生合材で90トのアスファルト合材製造能力を持ち、100トの合材サイロを備えている。敷地内では1時間

あたり100トの処理能力がある廃棄物中間処理施設を、2020年春以降の稼働開始を目指して建設している。建設準備委員のメンバーとして携わってきた高橋俊充大

元関係者や吉野正芳衆院議員、増子輝彦参院議員、須藤治経済産業省大臣官房福島復興推進グループ長など、多くの来賓が参列した。



福本社長は「当社は常磐自動車道双葉工区の建設に携わり、以来この地の復興に強い思いを抱いてきた。復興の先駆けとなる中野地区復興産業拠点で事業を営む一事業者として、双葉町が進める帰還環境整備事業や魅力的なまちづくりに少しでも役立てるよう全力で取り組んでいく」と強調した。

あいさつする福本社長

「始まりだ」と話す。21日に現地で開かれた火入れ式には、福本勝司大林道路社長や川中茂双葉住コン取締役ら関係者のほか、双葉町の伊澤史朗町長を始めとした地

澤町長は「両社には中野地区の営業テリトリーにはいまま復興産業拠点の整備を進めるお帰宅困難区域が残っている。復興・復旧・地域に根差した企業を目標に、努力・研

